



本校の広大な敷地の一面に、PTAの方々がひまわりを植えてくださるようになって二年目となり、そのひまわりを利用して、今年度も二年生が中心となって迷路をつくりました。いつも散歩に訪れる美馬牛保育所の子どもたちも大喜び、暑さを忘れて、毎日「ひまわり迷路」を楽しんでいました。(美瑛町立美馬牛中学校)

おもな内容

	ページ
随想	1
研修講座寸描	2
出前講座寸描	6
今、研究室では	7
教育講演会概要	8
心に残る授業 その⑧	9
お知らせ・ご案内	10

随想

「子どもという子どもはいない」



上川教育研修センター

副所長 鷲見正雄

日本は史上最多の三十八個のメダルを獲得してロンドンオリンピックは終わった。とりわけ水泳は戦後最多の十一個だった。インタビュに答えるメダリストの言葉に共通していたのは、「チーム力」だった。四〇〇メートルメドレーのようにチームとしての競技もあったが、基本的に水泳は個人競技であるにもかかわらずである。

私は、個（個性）と集団の関係について次のように考えている。個（個性）を生かすことにより集団が成り立たないのであればそれは本当に個（個性）を生かすことになっていないのか。また、個（個性）が生かされたい集団は、カラスには悪いが烏合の衆であり、価値のない集団である。私流に解説すると、日本の水泳チームは、一人一人の個性を生かし、また、個はそれぞれ、よりよくチームを形成し、結果として個も集団も力を伸ばしたことが十一個のメダル獲得につながったと思う。

さて、教育に携わる者として、前述した集団との関係を押さえた上で「個」ということについての識見をもっておきたいものである。以前ある研究会に参加したとき、助言者から「子どもという子どもはいない」という言葉を聞いたことがある。どのような脈絡での言葉だったか定かではないが、「具体的に言うと、A君、B君、Cさんという子どもはいないが、子どもという子どもはいない」との続く説

明に、そのときは、「子ども一人一人を大切にせよ」というくらいの意味であると受け止めた。

養老孟司氏の講演を聴いたことがある。氏によると、人間の脳が生み出した言葉は、脳が共通性を求めて進化してきたという経緯からかなり大ざっぱなものであるとのことである。例えば百個のリングがあったとしよう。形も色も大きさも味も違うのに、リングという言葉で大きくくりしてしまう。しかし、これは、人間だけがもつ言葉という文化である。動物や昆虫は、一つ一つのリングの情報はわかっているもそれらが「リング」であるとの認識はないであろうというのである。

講演の帰り道、ふと、標題の「子どもという子どもはいない」というフレーズを思い出し、養老氏の話と重ね合わせてみた。氏の話聞いて、この言葉の深さを改めて感じた。私たちは、ややもすると、言葉という人間だけがもつ素晴らしい文化を享受する余り、動物や昆虫のように一つ一つの個別の情報を集めることに手抜きをしないかと考える。教師は、「子ども」というくくりで研究をすることはあっても、教育現場では、A君、B君、Cさんという一人一人の個別の子どもについて理解することから教育の仕事を始めなければならぬと思う。個（個性）はかけがえのないものである。

遠足 一年生の目的地は、学校のそばの忠和運動公園。広いグラウンドや芝生、水の流れる池やアスレチックなどがあり、地域のこいの場となっております。毎年、遠足には行かない六年生のお兄さん、お姉さんが昼休みに合流して一緒に遊みます。今年も、仲良く手をつなぎ、「だるまさんが転んだ」で盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。(旭川市立忠和小学校)



センター日誌

- 7月10日 夏季拡大研究会
- 7月24日 教育委員会会議
- 7月30日・31日 道研連共同研究推進委員会
- 7月26日～8月9日 研究室夏季集中研
- 8月17日 センター組合議会運営委員会
- 9月6・7日 センター組合議会本会議
- 11月1日 道研連胆振大会
- \*毎週火曜日 センターだより第12号発行 定例研究室会議

4 学校経営 I 6/7

榊 良康 (教職大学院 教授)  
 小山 正道 (上川中 校長)  
 森谷 一夫 (永山中 校長)  
 増子 守 (東陽中 校長)

講師



榊先生の講義を拝聴し、改めて最高責任者としての重責に身の引き締まる思いをしているところです。明日からの学校経営に対するモチベーションをより一層高める研修となりました。講師及び提言の先生方がありがとうございました。  
 (旭川市立台場小学校 校長 福家 尚)

講座の様子から

研修講座寸描 その2

5 学校経営 II 6/8

香澤 昭一 (朝日小 校長)  
 藤澤 康次 (中富良野中 校長)  
 山崎 秀治 (大有小 校長)  
 鷲見 信夫 (北星中 校長)

講師



講義と提言資料による研究協議・交流という内容でしたが、改めて教頭の職責の重さを痛感しました。他校との交流では、実態や取組がわかり、とても参考になりました。明日に役立つ講座を開設して頂いたことにお礼申し上げます。  
 (士別市立上士別中学校 教頭 吉田 晋)

6 読書活動 6/19

藤田 幸 (啓明小 教諭)  
 中島 康博 (東五条小 教諭)  
 東五条小読み聞かせの会

講師



読書活動のための手立てを数多く知ることができ、よかったです。リテラチャー・サークルという言葉は今回初めて聞きました。講師の先生や参加された方々の熱心な姿勢に、私も学びたいと思います。ありがとうございました。  
 (旭川市立青雲小学校 田代 華子)

7 複式教育 7/3

菅原 彰 (向陵小 教頭)  
 中谷 隆 (富沢小 教諭)

講師



約二十名の受講者が集まって研修しました。複式教育の授業の基本や実践方法を講義で学んだ後、研究授業を見させていただきました。学年別指導の「同時進行」という方法が大変興味深かったです。日々の実践で生かしてみたいと思います。  
 (上富良野町立東中小学校 中川麻衣子)

(3)

8 小学校外国語活動 7/3

川崎 直人  
 (富良野市立東小 教頭)  
 志満 朋佳  
 (旭川小 教諭)

講師



外国語活動の実践上の課題や悩みの交流、研究授業、協議等、これからの授業づくりのヒントとなる大変有意義なものでした。また、外国語活動は学級経営とも深く関わっていることを知り、改めて日頃の指導の大切さを実感しました。  
 (旭川市立日章小学校 岡本 舞美)



(名寄市立風連日進小学校 竹内 静)

9 指導技術基礎 7/26

橋本 彰  
 (神居小 教頭)  
 山口 有士  
 (春光小 教諭)

講師

電子黒板の使用方法、その他視聴覚機器の活用仕方、板書の役割、構造的な板書について、多くを学ぶことができました。学んだことを生かし、よりよい授業を行ってまいります。ありがとうございます。

10 国語科指導 7/27・9/5

上田 祐二  
 (教育大 教授)  
 久世 隆治  
 (六合中 教諭)  
 忠海 盛弘  
 (日章小 教諭)  
 穴吹 竜也  
 (東陽中 教諭)

講師



伝えたいことを相手に伝える方法やテクニック。大きな声で、間を空けて……。頭では分かっているが実際に表現するのは本当に難しい。今回の授業では、VTRで自分のスピーチを振り返り、改善点について議論していく中で、自分の現状を認識することができていました。現状を認識することで、課題が明確になり、より実践に則した話し方をすることができるようになると感じました。  
 (旭川市立緑が丘小学校 松田隆之)



(下川町立下川小学校 本松 宏章)

11 社会科指導 7/30・9/6

金 政辰  
 (教育大 講師)  
 石前 聖香  
 (神楽岡小 教頭)  
 秋元 秀夫  
 (青雲小 教諭)  
 山上 伸也  
 (西神楽中 教諭)

講師

社会科の学習方法と学習内容の関係、社会的な見方や考え方を育む実践を数多く学ばせていただきました。また、小学校では餅菓子の製造、中学校では対立と合意・効率と公正を扱った示範授業を公開いただき、大変勉強になりました。

12 算数・数学科指導 7/31・8/30

相馬 一彦 (教育大) 教授  
 南 珠江 (愛宕小) 教頭  
 築取 美穂 (近文小) 教諭  
 藤本フミエ (聖園中) 教諭

講師



(占冠村立占冠中央小学校 林 真人)

子ども自身が目的意識をもち、主体的に学習に臨むためには、授業のねらいを明確にした算数・数学的活動と的確な教材研究が重要であること、また、一人一人の学習の成立を促すための指導と評価の在り方について研鑽を深めることができました。



(旭川市立神居東中学校 田村 隆幸)

13 国際理解教育 7/31

講師

堀 秀樹 (富良野西中) 教頭  
 川村 貴弘 (神居東小) 教諭  
 A・ターナー (旭川市ALIT)

異文化理解から他文化理解へ、国際理解教育から国際教育への変遷等、大きな視点で学ぶことができました。さらには、授業実践・演習で、より日常的な視点でも学ぶことができ、大変充実した研修となりました。

14 理科指導 8/1・9/5

安藤 秀俊 (教育大) 教授  
 高野 拓実 (六合中) 教頭  
 赤坂 准 (永山中) 教諭  
 進藤 貴史 (明星中) 教諭

講師



理科教育の今日的課題と、科学的な見方や考え方の育成について研修を深めることができました。科学的思考を育むために、学習展開を工夫することが大切だと感じました。演習や授業参観を通して、理科の楽しさを実感した研修でした。

(名寄市立名寄小学校 佐藤 久美)



15 外国語科(英語)指導 8/1・29

講師

笠原 究 (教育大) 教授  
 沼倉 修 (緑が丘中) 主幹教諭  
 松尾 聡 (東陽中) 教諭  
 西田 朋代 (愛宕東小) 教諭

講師の皆様による講義や授業、参加者のレポート等、各校の現状や実践を数多く交流でき、大変有意義でした。小学校外国語活動で培われた基盤を、中学校の指導で生かしていこうと思います。ご指導いただき、本当にありがとうございます。

(旭川市立永山南中学校 須永比紗子)

(5)

17 幼稚園教育 8/3



幼稚園、小中学校が連携して、発達の連続性を考えながら、子どもを育てていくことの大切さを改めて学びました。幼児一人一人を理解した丁寧な教育実践は、今後の指導に役立てていきます。有意義な研修を、ありがとうございました。(南富良野町立幾寅小学校 能勢 里砂)

山下由紀夫  
(旭川大学短期大学部 教授)  
馬場 信明  
(教育大附属旭川幼稚園 副園長)  
錦川 真紀  
(東神楽幼稚園 教諭)

講師



19 技術・家庭科実技 8/6

がありがとうございました。(占冠村立占冠中学校 細田 繭)

家庭科の「食」に関わる資料や食材、実践、実技指導の要点など、これからの授業に活用できる有意義な内容でした。普段家庭科での情報交流ができる場が本当に少ないので、大変参考になりました。わかりやすくご指導いただきありがとうございました。

内村めぐみ (大町小 教頭)  
濱 よりえ (北門中 教諭)

講師

20 いじめ・不登校 8/7



いじめの定義が変わって以降の現状が分かりよかったです。とりわけこれからは、「ネット」によるいじめへの対策が早急に必要なることを実感しました。演習などわかりやすくご指導いただき大変ありがとうございました。(旭川市立春光台中学校 及川 優)

佐藤 栄一 (旭川中 教頭)  
佐藤 聖士 (愛宕東小 主幹教諭)

講師



21 生活科・総合的な学習の時間 8/7・30

本講座では、キャリア教育の充実、気づきの質を高めること、探究的な学びを深めることについて具体的な学ぶことができました。キャリア教育とは特別なことをする訳ではなく、学習の中にあるとわかりました。ありがとうございました。(幌加内町立幌加内小学校 鹿島 菜子)

小野 敦司 (扇山小 教頭)  
広瀬 史雄 (新富小 教諭)  
山本 寛美 (台場小 教諭)  
八島 徹 (台場小 教諭)

講師

聖園中学校「ミニ講演会 放課後学習」 6/18

出前講座寸描

各学校が抱えている課題解決のために、校内研修で！近隣の学校と合同して！など学校や関係機関等のニーズに対応した出前講座を開催し、指導力向上を図っています。  
今年度も、管内各地からたくさんのお出前講座のお申込みがありました。理論研究であったり、実技講習だったり、希望内容は様々ですが、どの講座も好評をいただいております。



**放課後学習の在り方・事例を学びたい**  
【講師】山川俊巳 教頭（愛宕中）  
中学校学習指導要領が本格実施。「生きる力」の具現化。学力向上対策問題…。課題は山積。教職員の実践・個性を結集し、連携・協同して教育活動を展開することの重要性を再認識しました。具体的実践紹介もあり、大変参考になりました。  
（旭川市立聖園中学校 大野 昌広）

神居中学校「ミニ講演会 放課後学習」 6/19

共栄小学校「体育科実技」 7/23

マット運動・跳び箱運動の実技を

【講師】成瀬隆宏 教諭（知新小）  
跳び箱・マット運動の指導法について教えていただきました。子どもたちが楽しみながら行える準備運動や目標達成に向けての練習方法を学ぶことができました。今後、授業に取り入れていこうと思います。ご指導ありがとうございました。  
（旭川市立共栄小学校 田中 美枝）



**学習支援や放課後学習の在り方を学びたい**  
【講師】田丸直樹 教頭（北星中）  
放課後学習を中心に、学習支援や習熟度別授業の在り方も示していただきました。学校規模や状況を本校に合わせた話であったため、質問を沢山していただきましたが、丁寧に返答していただきました。今後の活動に生かしていきます。  
（旭川市立神居中学校 對馬 紀一）

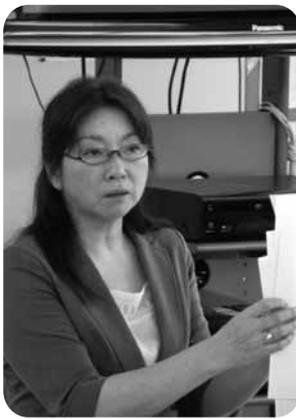


東光小学校「小学校外国語活動」 7/25

多寄小学校「特別支援教育」 8/27

小規模校における特別支援の在り方を

【講師】松田恭子 教諭（新町小）  
具体的な事例をもとにした、たくさんの資料や実践例が大変勉強になりました。これからもそれぞれに合った方法を模索していくことを大切にしたいと思います。遠くまで、足を運んでいただき、ありがとうございます。  
（土別市立多寄小学校 紺野 愛子）



**「Hi-friends」の効果的な活用の在り方を学びたい**  
【講師】宮原孝浩 教諭（春光小）  
講話の中で、児童が楽しく活動するためのねらいや指導法をわかりやすく説明していただき、とても勉強になりました。また、楽しいゲームやアクティビティを体験して、私自身、英語に対する苦手意識が減ったので、すぐ実践したいです。  
（旭川市立東光小学校 中田 育那）



美深小学校「生徒指導」 8/20

名寄東小学校「生徒指導」 9/10

児童生徒理解や生徒指導の機能を生かした指導について学びたい

【講師】庭瀬奈穂美 教諭（附属旭川中）  
講話の中で、生徒指導に対する構成的グループエンカウンターとの位置付け、活用点、留意点、Q-Uとの関連性など具体的に示していただき、楽しくも学び多き時間を過ごすことができました。ご指導ありがとうございました。  
（名寄市立名寄東小学校 増田 英雄）



**生徒指導の在り方・不登校児童への対応について学びたい**  
【講師】遠藤直俊 教諭（東光中）  
学校全体で組織的な生徒指導を行うことの大切さについて教えていただきました。また、不登校児童に対する様々な角度からのアプローチの仕方を示していただいたので、今後ぜひ生かしていきたいです。ご指導ありがとうございました。  
（美深町立美深小学校 中村 徹）



では…  
今、研究室

**研究主題**  
学力の確実な育成を図る指導と評価の在り方  
～目標達成に向けた授業構築～

**第15次研究**  
Q&A

第15次研究では、目標を具体的に設定するとともに、評価規準も具体的な児童生徒の姿として設定することで、目標達成に向けた授業構築を目指してきました。今年度は、前回お知らせしたように「形成的評価を生かした指導の改善」に重点を置き、目標・指導・評価の一体化を図り、学力の確実な育成について研究を進めています。そこで、これまでの研究を振り返り、目標・指導・評価を中心にQ&Aにまとめたものを紹介します。

**Q 1単位時間の目標は、どのように設定するとよいのでしょうか？**

**A** 身に付けさせなければならない知識・技能、考え方等について、重点化・焦点化を図り、目標を設定します。その上で、指導内容、学習課題、評価規準を吟味し、その後再度それらの記述にズレはないか、抽象的な言葉になっていないかを確認し、内容の関連を図り、具体的に設定します。（15次研究で一番大切にしているのは、目標の設定です。）

**指導**

**Q 評価を生かした指導の工夫は、どんなことに気を付けるとよいのでしょうか？**

**A** これまでの児童生徒の実態や学習状況を見取り、つまずきを捉え、目標達成に向けて必要な手立て(指導)を講じ、目標・指導・評価の一体化を図ることが大切です。

**Q 構造的な板書とは、どんなことに留意するとよいのでしょうか？**

**A** 本時の学習内容に合わせて、児童生徒の思考の流れに沿っていることや、分析的であること、関連付けがなされていること、階層的であること等、分かりやすい板書に心掛けることが大切です。

**目標**

**一体化**

**Q 問題解決的な学習過程を単元に位置付ける際には、どんなことに気を付けるとよいのでしょうか？**

**A** 問題解決的な学習過程は、児童生徒が主体的に学習に取り組むために有効な方法です。そのため、構成する際には、児童生徒の思考の流れに沿っていることが重要です。また、基本展開を「学習課題の把握(見付ける)→解決計画、追究・解決(求める)→まとめ・発展(高める)」としています。

**評価**

**Q 児童生徒全員をどのように評価するとよいのでしょうか？**

**A** 一人一人に確実に学力を身に付けさせるためには、毎時間の評価が必要です。ですから、1単位時間の評価観点を1～2つに重点化し、効率的に評価することが大切です。

評価場面においては、どのような記述ができているとよいかポイントを明確にし、ノートや学習プリント等を活用して、目標達成状況を把握します。また、観察や実技等で見取る場合は、評価場面を複数回設ける等全員を見取ることができる工夫が大切です。

詳しくは、昨年度及び今年度発行予定の研究紀要をご覧ください。

平成二十四年度 上川教育研修センター教育講演会

# 「元気な子どもを育てる」

## 学校づくり

講師 大阪教育大学監事 野口克海氏

時 平成二十四年九月四日  
於 上川教育研修センター



1 はじめに  
教育改革が進むことにより、ここ十年、先生方が多忙化し、子どもたちと遊ぶ時間が減っています。

しかし、「元気な子どもを育てる学校」にするには、子どもといっぱい遊んで、保護者とうんと語り合い、先生同士が仲良くなるのが基本です。

### 2 子ども理解①「子どもの発達段階を長い目で見る」

まず、「子どもたちが元気な学校」をつくらうと思ったら、全職員で共通して子ども理解しておくことが大事です。

乳児期には安定根が大事です。自分では何もできない赤ちゃんの時代に、「目と目を合わせながらうんと抱きしめてもらうて可愛がってもらおう」そんな愛のシャワーをいっぱい浴びた赤ちゃんは、自分の周りの大人は自分にとって親切だ、温かい、優しいというのが皮膚に染みこんでいて、安定根がともしっかりして大きく育ちます。思春期になり、問題行動に走っても立ち直るのが早いです。逆に乳児期に、虐待を受けたらほうつたらかしのようになります、安定根が小さく、思春期になって不登校や問題行動に走ったときに、立ち直るけれど時間がかかり

ます。安定根というのは、「愛のシャワー」なのです。最近、淋しい子、増えてると思いませんか？

幼児期に入りますと、キーワードは「しつけ」。しつけというのは、「しつけ」から「しつけ」なのです。挨拶がしつけの一番基本です。家できちっと挨拶

ができてる子は、学校でもきちんとして挨拶できると道徳は家庭教育です。本来は学校は勉強するところ、集団生活を学ぶところ

です。子どもを勉強嫌いにさせない方法、それは「自己肯定感」を

たせることです。他人との比較で自信をもたせる方法もありません。

また、他人

乳児期	幼児期		学童期	思春期
	前期	後期		
0才	1.5才	3才	6才	10才
安定根	しつけ	やってこらん	自己肯定感	同行二人

との比較ではなく、よいところを誉めたり、「大好き」と言ったり、あるいは「そのままの、今のままのあなたで十分素敵だよ」という自己肯定感をもたせる方法もあります。「自己肯定感」は元気のあ

る子のがんばるエネルギーになるのです。

しかし、小学校の六年生ぐらいになるまでの間に、何か子どものやる気がなくなってくるのは、自己嫌悪感、自己否定感がはびこってくるからです。何とか小学校時代に自信をもたせたり、頼りにされている、愛されている、大切にされている、そういうような気持ちを子どもにもたせたりすることが大切です。思春期に入る前に、やってもらいたいことは『安定根』＝愛のシャワー。「やってこらん」ということです。

エリクソンの発達段階論に基づくと、思春期は十歳ぐらいから、肉体が大人の体に変化してきて、心と体のアンバランスの時期を思春期と言います。いわゆる第二反抗期、人生の嵐の時代と言われるます。思春期の子どもとのつきあいは、頭ごなしに怒るのではなく、同じ方向を向いて「同行二人」で行くのが、キーワードです。

### 3 子ども理解②、最近の子どもで気になること

(1) つながる力の弱さ、絆の薄さ。  
ネット社会が進行し、ゲームでもパソコンでも、会話の必要がなくなり、子どものつながる力が弱くなってきたと思いませんか？

子どもと子どもをつなぐ、そのつながり方がとつても薄っぺらくなって、「友達同士で集まっても個々にゲームを遊んでいる」「学級が替わると友達が替わる」

時間が経てば簡単に剥がれてしまう薄っぺらい人間関係に今の子どもたちはあります。

(2) 子育ての二極化、「ほったらかし」と「かまひ過ぎ」

バブル崩壊後の家庭崩壊やら生活の貧困やら、家族がバラバラになっていつて孤立している子どもたちがうんと増えてる代わりに、うんと可愛がって育てられて真面目で受け身なだけの若者がうんと増えているという二極化傾向があります。

- ・受け身、言われたことだけ、まじめ、ムリをしない等
- ・孤立、不規則な生活、キレやすい、デートDV等

### 4 子ども、保護者とどう向き合うか

(1) 「好かれようと思っな、好きになれ」子どもは敏感だから、先生に好きではないと思われてるとそれを感じとりません。子どもは好きな人からしか学ばびません。先生と子どもとの間には教育が成



(9)

り立つ関係が必要です。教師が子どもに好かれようと思つたら、嫌われたらどうしようと思ひ、本気で叱ることできません。「好かれようと思ひな、好きになれ。こつちが好きになったら、子どもは完全についてきてくれる」と若い先生に私は言っています。もつと子どもと一緒に遊び、いっぱい話しましょう。

(2)「山あらしのジレンマ」

友達を傷つけない、友達とぬくもり合える、ちょうどよい友達との距離感を「山あらし距離」と言います。大きい子や小さい子が群れて遊んで、時には泣かされたら、時には喧嘩して、「こういうふうにしたら友達が怒る」「こういうふうの体を覚えていきます。そういう体験が不足している子は、なかなか集団になじめません。そういう「山あらしのジレンマ」を身につける学校行事や学級のいろいろな取組が今日、求められているのではないのでしょうか。

(3)「子どもは変わる、子どもの可能性をとことん信じる教師に」

子どもは、信頼したら頑張ってくれます。子どもに自主性をもたせて、「本当に頼りにしているよ」と信じて任せること、子どもに達成感や自尊心を高めることは大事なことです。そして、何よりも子どもをとことん信じることで子どもは変わります。

(4)「気になることがあつたり飛んで行く、熱意は伝わる、共感的理解」

保護者に対しては、タイミングがずれると何を言つても「言い訳」になります。しかし、こちら先手必勝で行つたら「説明」になります。「説明」と「言い訳」は大違いです。先手必勝、教育は『今日行く』から『教育』と言います。



5 「教育はチームでするもの・教職員が元気でなくてはならない」教職員の自己肯定感

子どもに自己肯定感を高める前に、教職員の自己肯定感がなくて、子どもの自己肯定感が高まるはずがありません。「私が学校を支えている」「私がいないと学校が困る」という自尊心を、先生方がみんな思つてくれるといいです。それから、「教職員のつながりと絆」とよく言われますが、「教育はチームでするもの」という考え方をマイナスにとらえて「やめとこう」という方に引つ張られないように気を付けなければなりません。「子どもたちといっぱい遊んでますか」「保護者といっぱい話し合っていますか」「先生同士、いっぱい仲良く努力してますか」この三つが出来て初めて、教育は前に進むし、学校は元気になるんです。この一番大事な教育実践の原点を忘れないで、それをきちんと増やすような取組をみんなで工夫し学校教育を前に進めたいです。

心に残る授業

その 66



上川教育局  
義務教育指導班  
指導主事  
長谷川 順子

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、算数・数学科においては、言語活動の充実を図り日常の事象を数理的にとらえ、見通しをもち筋道を立てて考え表現したり、表現したことから考えを進めたりする力を培うことが求められています。

私が参観させていただいた心に残る授業は、教師の適切な発問と指導により、子どもが生き生きと算数的活動に取り組み、自分の考えを広げたり深めたりしながら、確かな学力を身に付けていく授業でした。

本授業は、二年生の「ひきざん」の単元の二位数ー二位数であり二位数ー一位数までを既習している子どもが繰り下がりのない二位数ー二位数の計算の方法について考える時間でした。

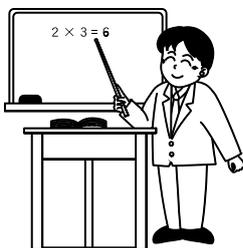
「一人で考える」の場面で、子どもたちは様々な方法を考え出していました。先生の「より簡単で、間違いない方法はどれだろう」とい

う発問で、子どもたちの目の色が変わり、数の分だけ○を書くよりも⑩や①のカードを使つたり、ブロックのまとまりを使うほうが、より簡単で、正確ではないかと話し合い、本時の目標に迫っていききました。

その後、先生は二位数ー二位数の異なる問題をいくつか示して子どもたちに選ばせ「自分が一番よいと考えた方法を解き、なぜその方法を選んだのかを友だちに説明してみよう」と働きかけました。子どもたちは位ごとに計算する方が簡単で間違いが少ないことに見事に気付いていききました。

私は、思考を促す発問と工夫のある算数的活動の展開により、子どもを目標に導く先生の指導力の高さに、心から敬意を感じました。

今後も、上川管内の各学校において言語活動の充実が図られ、すべての子どもが学ぶことの意義を実感し「わかった」、「できた」、「もつと勉強したい」と瞳を輝かせながら意欲的に取り組む授業が展開されることを期待しています。



2012年(平成24年)7月4日(水曜日)

北海道新聞(夕刊)

第3種郵便物認可



富沢小で公開された複式学級授業の様子

# 複式学級授業に工夫

## 旭川・富沢小の現場公開

複数年級の授業を1クラスで行う複式学級での指導技術を学ぶ研修会が3日、旭川市の富沢小(藤木由加里校長、30人)で行われ、上川管内の教員22人が授業をスムーズに進める工夫を学んだ。

(田辺恵)

管内の自治体が出資し運営する上川教育研修センターが主催。現在管内で複式学級を設けているのは小学55校、中学11校あり、着

### 管内の教員22人が研修

任した若手教員が授業の進め方に戸惑うことも多いという。

研修会では同小の3、4年生の算数の授業が公開された。教室の前後に黒板を設置して、担任教諭が1人で2学年を交互に指導。先生が離れる時間帯は、学年ごとに課題を解いたり、生徒が司会して答え合わせを行った。

名寄市中名寄小で1、2年生の複式学級の担任を務める木田達也さん(26)は授業見学を終え、「どちらかの学年に比重が片寄らず、全員が参加できる授業の進め方で、とても勉強になった」と話していた。

七月三日・富沢小学校を会場にて行われた「複式教育研修講座」の様子が北海道新聞に掲載されました。子どもたちの健やかな成長を目指した指導力向上の取組が、保護者や地域に広く理解される一端となったと思います。

## 「複式教育研修講座」が

### メディアに!!

合い言葉

「試そう上川の力で、  
創ろう上川の力で、  
生かそう上川の力を」

## 今後の研修講座のご案内

今年度の講座利用者は現在一、〇二四名です。教科指導・経営・教育課題など様々な角度から研修を深め、日々の実践に生かしていただいております。今年度予定している講座は、下記のとおりです。さらなる研鑽の手立ての一つとして、ぜひご参加ください。

お申込みは開催要項・WEBサイトの申込用紙にご記入の上FAXされるか、研修センターにご連絡ください。

TEL 0166-241-2501  
FAX 0166-241-2512

センター研究発表会とは...  
上川教育研修センターの研究発表と研究協力校の実践発表を通して研究協議を行い、目標・指導・評価の一体化について研修を深める講座です。ぜひご参加ください。

開催期日	研修講座名 (会場は全て研修センター)
1月7日(月)	午前 文化講座 「書に親しもう」
	午後 文化講座 「絵に親しもう」
1月8日(火)	ミニ道研 【言語活動の在り方】
1月9日(水)	ミニ道研 【学習評価の在り方】
1月11日(金)	パソコン講座 「学校で役立つプレゼンテーション講座」
2月5日(火)	センター研究発表会

## ミニ道研講座のご案内

北海道立研究所と連携し、道研所員が講師となって研修講座を開催します。

一月八日は「言語活動の在り方」について講義と演習を行います。

言語活動の充実を図る指導の在り方  
指導計画における目標と評価規準の改善・充実

言語活動の充実を図った授業づくり  
言語活動を位置付けた授業の実際

一月九日は「学習評価の基本的な考え方」「学習指導の改善につながる学習評価の充実」について講義と演習を行います。

・学習評価の基本的な考え方  
・一単位時間における学習評価の実際  
・指導力の向上を図る学習評価  
・学習指導・評価計画の工夫・改善

◎冬季休業中の研修としてぜひご参加ください。

## ギャラリー(セン)をご利用ください



研修センター1階奥の第2研修室の壁面をギャラリーとして開放しています。多くの皆様のご利用をお待ちしております。(お問い合わせは研修センターまで)



書の小品展 PART1  
7月30日～8月20日

書の小品展 PART2  
9月3日～9月24日



発行日 平成二十四年十一月一日  
責任者 上川教育研修センター  
印刷所 旭川市六条通四丁目  
電話(〇一六六)二四一二五〇一  
山 下 尚 年  
東信印刷株式会社

※この用紙は再生紙(古紙70%)を使用しています。